串間のあんな人こんな人

People

ピープル

串間で活躍する人を紹介します

きらめき図鑑

kirameki

I LOVE 岬馬

岬馬に魅了された男

都井岬で生きる国天然記念物の野生馬「岬馬」にほれ込み、串間市に移り住んだ秋田優さん。現在は市のエコツーリズム推進室で岬馬の価値啓発や保護活動に取り組んでいます。また、講演会の講師や野生馬ガイドも務め「秋田さんのガイドを聞きながら一緒に歩くと都井岬が10倍面白くなる」という人もいるほど、都井岬に精通する名解説者でもあります。

静岡県で育った秋田さんは山形大学に進学し、国内の大型野生動物であるニホンジカやカモシカなどを研究していました。「昔から馬は好きな動物の対象であったが、身近な世界で馬といえば競馬や乗馬クラブの世界しかないという思い込みで、研究する対象ではなかった」と当時を振り返ります。

転機となったのは大学3年の2000年春。大学教授から岬馬のことを知ると、すぐに都井岬を訪れました。初めて訪れた都井岬は雨が降っていて、霧がかかった小松ヶ丘を上がっていくと、目の前に現れた野性味あふれる真っ黒の雄馬に衝撃を受け、一目ぼれしたといいます。大学4年時の一年間は都井岬へ住み込み、研究論文を書き上げると、卒業後は宮崎大学大学院へ進学し研究を重ねました。卒業後も串間市の臨時職員として働きながら岬馬に関わり、29歳のときに文化財専門員として市職員に採用されました。

現在秋田さんが力を入れるのは、地域の自然資源や生活文化を守りながら、持続可能なかたちで活用し、次代にも送り届けることを目的としたエコツーリズム。野生馬ガイドツアーもその一つで、これまでガイド活動や育成にも力をいれてきました。「都井岬という一級品の素材を生かすために、ガイドという料理人が必要」。「見る」から「体験する」観光へと変えていくことで、定期的に訪れる「都井岬ファン」を増やし、地元の人も良さを再発見する好循環が生まれれば、岬馬の価値が高まると考えています。

岬馬との出会いから約20年。「岬馬が奇跡的に現代に生き残っていたことで、私も生きる場を与えてもらった」と秋田さん。岬馬を中心とした丘陵の草原や花々、昆虫など、まったく違う生物であっても、同じ環境を共有する生物たちは、なにかしら関わり合いを持って生きています。「ありのままの自然環境をこれからも残していくには、この価値を現代社会に認められることが不可欠。そのためにも都井岬の魅力を多くの人に伝えていきたい」。

秋田（あきた） 優（まさる）さん
（福島地区・西今町）

栃木県生まれ、静岡県育ち。40歳。大学時代に都井岬の岬馬に魅了され、串間市に移り住む。現在は市のエコツーリズム推進室で岬馬の価値啓発や保護活動などに取り組む。

研究ノート

野生馬ガイドの様子

くしまっ子

空手の全国大会で3位 目指すは日本一

次こそ優勝！

気迫溢れる試合をする南くん

各都道府県予選を勝ち抜いた上位2名が出場し、空手の小学生日本一を決める「第18回全日本少年少女空手道選手権大会」が8月に行われ、福島小学校2年の南仁くんが学年別で競う個人組手の部で3位に入賞しました。

親のすすめで4歳の頃から串間空手塾緑勝会で空手を始めると、週3回の稽古を重ね着実に力を付けてきました。

5月の県大会で優勝して出場を決めた全国大会の同部門には、全国各地から97人がエントリー。初戦となった2回戦で栃木県の選手を下すと、準々決勝まで次々と相手を倒し、準決勝に進出。そこで敗れたものの3位をつかみました。仁くんは「日本一を目指していたので負けたのは悔しかったけど、全国で3位になれたのはうれしい」と大会を振り返ります。

全国大会は2年連続の出場でしたが、昨年は3回戦敗退。敗戦をバネにこの1年で稽古を積み、中段突きのキレを磨いてきたといいます。

また、仁くんが通う緑勝会は6年連続で全国大会入賞者を輩出している道場で、手本となる上級生がいることも大きな刺激となり、原動力となっています。

大会後は新しい技の練習に取り組んでおり「来年こそは日本一を取りたい」と仁くん。全国の頂点を目指し、さらに日々の稽古に打ち込んでいます。

18. 南（みなみ） 仁（じん）くん

福島小学校2年。4歳から緑勝会で空手を始める。8月の全国大会で3位。県少年少女選手権大会2連覇。得意技は中段突き。自転車に乗るのが好き。

地域おこし協力隊

活動日記 vol.18

「ヤマダイかんしょ 地理的表示保護制度(GI)登録」

長友（ながとも） るみさん

8月6日にJA串間市大束のブランド甘藷「ヤマダイかんしょ」が地理的表示保護制度(GI)に登録されました。「地理的表示保護制度(GI)」とは、その地域で長年育まれた生産方法や、その地域の気候・土壌などの生産地の特性により、高い品質と評価を獲得している産品について、その名称を知的財産として登録・保護する制度です。

約2年前にブランド推進協議会の業務を担った際に、一番最初に任された仕事が、GI登録に向けての支援業務でした。正直、素人の私に弁理士に任されるような仕事が舞い込み驚きました。ですが、実はGIについては長く参加していた農水省の有志の会の勉強会で学んだ事もあり、メンバーの中にも精通した人達がいたり、仕事で関わっていた県でGIを取得に向けて取り組んでいたりと、応援してくれる環境があったので取り組んでみようという気持ちになりました。実際やってみると、長年評価されてきた品質の良さを客観的に論理的に文章を作るという点に大変苦労しました。しかし、壁にぶち当たるたびに、資料として読みあさった、昭和39年からの生産者の苦労や努力により西日本有数の甘藷産地になった歴史に奮起しました。時には行き詰まり図書館に逃げ出すこともありましたが…。

今回の取得は何よりも、50年という長い期間生産を続けてきた生産者の方々と、その産地育成のために施設整備等と行なってきたJA串間市大束さんはじめ関係者の方々への「表彰」だと思います。登録間近に生産者さんを訪れた際に、生産者の方が、ヤマダイ甘藷を出荷するまでには、「同じイモに何度も触れる」とおっしゃった言葉が印象的でした。取得までには正直様々な葛藤もありましたが、取り組んでよかったと思えた瞬間でした。

さて、安心してはいられません。取得後が勝負！ 9月には関西地区にて2つのイベントを企画しました。ヤマダイかんしょの知名度向上をきっかけに、串間市やその他串間の産品のPRをがんばります。